

南薫校区の

文化財マップ

久留米市教育委員会

南薫校区の文化財

「南風薫ずる処」という優雅な意味で、地名が付けられたと伝えられる南薫校区は、明治22年(1889)、久留米市が誕生したと同時に南薫町の名称ができました。

明治42年(1909)には日吉尋常小学校から分離して、南薫尋常小学校が創立されています。当時の校区は、蜷川町・寺町・通外町・南薫町・南薫西町を含むものでしたが、大正12年(1923)に櫛原村の一部、大正13年(1924)には東町・諏訪野町・野中町の一部が編入され、現在の南薫校区が成立しました。

校区内の縄文時代の遺跡は少なく、南薫西遺跡で狩りに使ったと思われる落し穴が発見されている程度です。弥生時代になると東櫛原今寺遺跡や石丸遺跡、南薫稻荷遺跡など、校区の広い範囲に遺跡が広がります。飛鳥～平安時代には南薫西遺跡で神様の名前である「芋原」「大神」などの文字が書かれた土器が発見され、神様をお祀りしたことが窺えます。平安時代の終わり頃には、大宰府安楽寺の櫛原庄(荘園)が広がっていたと思われます。その後の江戸時代には有馬氏の城下町整備により、寺町、下級武士の宅地である鉄砲屋敷、そして町屋が通町十丁目・通外町まで広がりました。五穀神社の祭礼は、からくり興行などで賑わい、「からくり儀右衛門」こと田中久重や、久留米緋を考案した井上傳などの出身地としても知られます。

大正8年(1919)～昭和27年(1952)には三井電気軌道が校区内を走り、戦中には憲兵隊本部が置かれるなどしましたが、現在では知る人も少なくなったようです。また、かつては五穀神社東側や校区の北側あたりには低湿地が多く、水の恵みを受けた「蓮根堀」なども見られましたが、近年の都市化により、ほとんどが消滅してしまいました。



▲弓曳き童子(久留米市指定文化財)

弥生時代の文化財

ひがしくし はら いま であ い せき

東櫛原今寺遺跡

市指定史跡

櫛原中学校周辺に広がる弥生人の集落跡です。竪穴住居などの建物、土器や石器などの生活道具が発見されています。



いし まる い せき

石丸遺跡

弥生人たちの墓地です。櫛原天満宮付近から150基以上の甕棺が列をなして発見され、管玉や銅矛なども出土しています。



櫛原天満宮にある大石は、こうした甕棺の上に置かれていたと伝えられています。

つじ い せき

辻遺跡

櫛原郵便局付近の高台に広がる弥生時代を中心とした集落遺跡です。



なん くん いなり い せき

南薫稻荷遺跡

鳥類センターの西側で発見された弥生人の墓地です。発見された甕棺や石棺など97基のお墓には、13体の人骨が残っていました。



飛鳥・奈良・平安時代の文化財

なん くん にし い せき

南薫西遺跡

「芋原」「大神」など、文字が書かれた土器が発見されました。筑後国御井郡節原郷の中心的な集落と考えられています。



室町時代の文化財

い おう じ へんじょういん じ ぞう いた び

医王寺(右)と遍照院の地藏板碑

市指定有形文化財

応永年間(1394~1428)に建立された地藏の彫像板碑です。



江戸時代の文化財

く る め じ ょ う か ま ち い せ き 久留米城下町遺跡

有馬豊氏の筑後入国(1621年)から本格的に整備が始まり、1646年ころには通町十丁目や通外町まで完成したと言われています。発掘調査も行われ、食器などの出土品からは町人の暮らしぶりが想像できます。



どう ひ ょ う せ き 道標石

久留米城下町から府中(御井町)に至る日田街道沿いに、安永8年(1779)に立てられた道しるべです。榎原天満宮への方角などが記されています。



た な か ひ さ し げ お う せ い た ん ち き ね ん ひ 田中久重翁生誕地記念碑

東芝の創業者の一人であるからくり儀右衛門こと田中久重は、寛政11年(1799)、久留米城下の通町に生まれました。



く し は ら て ん ま ん ぐ う い し ば し 榎原天満宮の石橋

文政10年(1827)、城下町有力商人や榎原村有志により造られました。

■南薫校区の文化財■

No.	文化財の名前	時代	こんな文化財です
1	いし ま る い せ き 石丸遺跡	弥生	まい そ う か め か ん ぼ 二列埋葬の甕棺墓群を発見。
2	なん ぐ ん い な り い せ き 南薫稲荷遺跡	弥生	多数の甕棺墓を発見。
3	なん ぐ ん に し い せ き 南薫西遺跡	飛鳥～平安	文字が書かれた土器が多く出土。
4	なん ぐ ん ほん ぶ ら い せ き 南薫本村遺跡	弥生・奈良	弥生時代と奈良時代の集落跡。
5	つじ い せ き 辻遺跡	弥生～近代	弥生～室町時代の墓地や住居を発見。
6	く る め じ ょ う か ま ち い せ き 久留米城下町遺跡	江戸	久留米城下の町屋の跡。
7	てつ ぱ う こ う じ い せ き 鉄砲小路遺跡	江戸	てつ ぱ う あし が ら 鉄砲足軽たちの住宅地。
8	そく し あ ん 跡 即似庵跡	江戸	く る め はん か ろ う あり ま し め ぜん 久留米藩家老有馬主膳の茶室(不白流)。
9	そく し あ ん き 即似庵記	江戸	即似庵の創立について記した石碑。

10	はかたみち 博多道	江戸	久留米城下と博多とを結んだ道。
11	たかやまひこくろうせんせいしゅう焉之地	江戸	寛政5年(1793)に自刃した屋敷跡。
12	じゅうしししゅう焉之地	明治	明治2年(1869)公武合体・開明派の指導者達が自刃を遂げる。
13	たなかひさおきなげんじたんちきねんひ	江戸	田中久重の生誕地に建立された記念碑。
14	くろめせいてつしよあとの	明治	田中久重が所長を務め、小銃やその他の発明品を製造。
15	くしはらてんまんぐういしはし	江戸	文治5年(1189)に創建された櫛原天満宮の参道に架かる橋。
16	さるたひこおおかみさいしひ	江戸	文政11年(1828)の大風で破損した愛宕神社の鳥居を利用した道祖神碑。
17	えんめいじさうぞん	江戸	善福寺の上人作。人々の長寿延命を祈願。
18	どうひょうせき	江戸	安永8年(1779)、城下より府中(御井町)に至る旧街道筋に建立。
19	トンコロリン地蔵尊	明治維新頃	コレラが流行した時、地蔵尊が夢枕に立ち、井戸から引き上げて祭ったのが始まり。
20	おうへんたいとんじよあとの	明治	戊辰戦争や函館戦争に出征。
21	みいでんききどうみいせん	大正～昭和	日吉町～甘木間を走行。
22	くろめけんべいたいあとの	昭和	大日本帝国陸軍の内部警察組織。

■ 指定されている文化財 ■ 《地図面の解説参照》

A	市史跡 ひがしくしはらいまでらいせき 東櫛原今寺遺跡	弥生～中世	弥生前期～終末期の集落と墓などが発見。
B	市指定有形民俗文化財 いおうじしさうぼさつちやうどういたび 医王寺の地藏菩薩彫像板碑	室町	応永5年(1398)の銘。江戸時代に童子供養の地藏へ転用。
C	市指定有形民俗文化財 へんはういんじさうぼさつちやうどういたび 遍照院の地藏菩薩彫像板碑	室町	応永年間(1394～1428)頃に建立。
D	市指定有形文化財 ほんたいしさんもん 本泰寺の山門	江戸	元禄年間建立と伝わる、久留米最古の平唐門形式山門。
E	市指定有形文化財 ごこくじんじやししはし 五穀神社の石橋	江戸	文化3年(1806)に五穀神社の放生池に架けられた石橋。
F	国史跡 たかやまひこくろうのはか 高山彦九郎墓	江戸	遍照院内に建立された、寛政の三奇人として知られる高山彦九郎の墓。
G	国指定文化財 しはしだんごくしはしびんがく 石橋財団石橋美術館 石橋美術館別館の文化財		けんぼんたんさいしきざんすいす しほんぼくがせん 絹本淡彩四季山水図(室町)、紙本墨画禅 機図断簡(室町)、古今和歌集巻第一断簡 (平安)、飛青磁花瓶(平安～中世)、天平 の面影(明治)、海の幸(明治)、わだつみ のいろこの宮(明治)などを収蔵。

■南薫校区の歴史年表■

時代	西暦	南薫校区のできごと
旧石器時代		
縄文時代	10000	
弥生時代	紀元前 紀元後	南薫校区に人が生活し始める 東櫛原今寺遺跡に集落ができる 石丸・辻・南薫稻荷遺跡などに甕棺 など墓地がつくられる
		
		南薫稻荷遺跡(現:薫公園)
古墳時代	300	
		東櫛原今寺遺跡に集落が営まれる
飛鳥時代	600	
奈良時代		筑紫大地震(678)が起きる 南薫西遺跡に集落がつくられる
平安時代		
鎌倉時代	1200	大宰府安楽寺に櫛原庄が寄進される
		
		通町絵図
室町時代	1300	応永地蔵板碑がつくられる(医王寺・遍照寺)
江戸時代	1600	久留米城下町(寺町・通町・通外町)が形成される
明治時代	1800	井上傳、田中久重が誕生 五穀神社の石橋が架けられる
	1900	筑後川改修工事完成
大正時代		三井電気軌道開通(1952年、三井線廃止)

《文化財についてのお問い合わせ先》

久留米市 市民文化部 文化財保護課

久留米市城南町15-3(市役所12階)

電話 0942-30-9225 FAX 0942-30-9714

E-mail: bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp

久留米市埋蔵文化財センター

久留米市諏訪野町1830-6(えーるピア久留米敷地内)

電話 0942-34-4995 FAX 0942-34-5045

南薫校区の文化財マップ

平成27年3月31日

発行:久留米市

編集:市民文化部文化財保護課

印刷:香和印刷株式会社

<表紙>五穀神社の石橋

●寺町イラストマップ

●お願い●

各寺院は祖先の眠る場所でもあります。境内への立入りにはご配慮下さい。

① 医王寺 (真言宗)

高良山座主の麟圭親子とその家臣の墓が「ハツ墓」として残っています。



② 少林寺 (臨済宗)

桶冠り観音が安置されています。



③ 遍照院 (真言宗)

高山彦九郎にゆかりのある京都にちなんだ庭園で知られています。



④ 千栄禅寺 (曹洞宗)

煉瓦やステンドグラス造りの寺院で、ブリヂストン創業者の菩提寺です。



⑤ 誓行寺 (浄土真宗)

佐賀九年庵を作った阿理成が手がけた庭園があります。



⑥ 浄願寺 (浄土真宗)

千軒檀家の寺と称されています。



⑦ 心光寺 (浄土宗)

不動堂には、第四代藩主有馬頼元と等身大の不動明王が祭られています。



⑧ 宗安寺 (浄土宗)

藍胎漆器の生みの親、川崎峰次郎の墓があり、本堂や門には三葉葵の紋が見られます。



⑩ 徳雲寺 (臨済宗)

本堂・納骨堂は、建築家菊竹清訓の設計によるものです。



⑪ 善福寺 (浄土宗)

明治28年(1895)洋画家古賀春江はここで生まれ、境内には供養碑があります。



⑫ 妙善寺 (日蓮宗)

久留米藩最初の米国留学生で大善寺 宮本洋学校長 柘植善吾の墓があります。



⑬ 正覚寺 (曹洞宗)

本堂の鬼瓦や軒瓦に見られる十六菊紋は、有栖川宮家から使用を許可されたものです。



⑭ 妙蓮寺 (浄土真宗)

山門・庫裏西側は、上級藩士の下屋敷の門と長屋を移築しています。



⑮ 妙正寺 (日蓮宗)

久留米つつじの祖 坂本元蔵の墓があります。



⑯ 西方寺 (浄土宗)

鳥類研究家 川口孫次郎や幕末の志士・今井栄の墓があります。



⑰ 真教寺 (浄土真宗)

門に入って左手にある石幢の六地藏は、県下で最古のものとして伝えられています。



⑱ 本泰寺 (日蓮宗)

安住院日就上人により開山された寺で唐門は市の指定文化財になっています。



南薫校区の文化財マップ



久留米市イメージキャラクター
くるっばーサイドパーク

久留米市指定文化財

いおうじ じぞう ぼさつちようぞういたび
医王寺の地蔵菩薩彫像板碑



自然石に地蔵菩薩を彫った板碑です。江戸時代の銘が重ね彫りしてあることから、応永地蔵を童子供養に転用したと思われる。

久留米市指定文化財

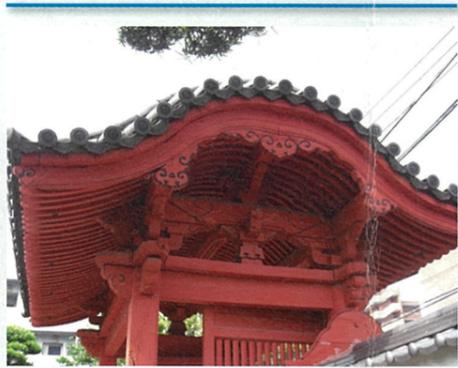
へんじょういん じぞう ぼさつちようぞういたび
遍照院の地蔵菩薩彫像板碑



自然石に地蔵菩薩を彫った板碑です。室町時代初期に作られました。御井町、荒木町、高良内町にある地蔵と同じ作者と思われる。

久留米市指定文化財

ほんたいじ さんもん
本泰寺の山門



久留米市内で最古の平唐門形式の山門です。各所に禅宗様式を配し、装飾性が高いことも特徴としてあげられます。

凡例	恵	…えびす	祠	…ほこら	堂	…お堂
	地	…地蔵	碑	…記念碑	像	…胸像
	卍	…神社	石	…石造物や信仰の対象となる石		



久留米市指定文化財

ひがしくしはらいまでら いせき
東櫛原今寺遺跡



弥生時代の集落と墓域を中心とした遺跡です。前期の竪穴住居や、中期の甕棺墓などが発見されました。

国指定文化財

たかやまひこくろうのはか
高山彦九郎墓



蒲生君平、林子平と並ぶ寛政の三奇人と言われた、江戸時代の勤王家です。1793年6月27日、世をはかなんで自害しました。

国指定文化財

公益財団法人 石橋財団石橋美術館・石橋美術館別館の指定文化財

【絹本淡彩四季山水図】

室町時代の画僧である雪舟は、日本水墨画の確立に大きな影響を与えました。この絵は明からの帰国後に描かれたものと思われます。

【紙本墨画禅機図断簡】

中国元代の画僧因陀羅作。唐代の禅僧丹霞にまつわる話を描いたものです。

【古今和歌集卷第一断簡】

現存する最古の写本です。桜にちなんだ和歌が書かれています。

【飛青磁花瓶】

中国龍泉窯系の青磁。釉下に散らされた鉄斑文が特徴です。

【天平の面影】

藤島武二の初期の作品。明治浪漫主義作家の青木繁に大きな影響を与えたといわれています。

【海の幸】

明治の代表的日本洋画家青木繁による、海シリーズの中でも代表的作品。大胆な構想と画技で表現された作品です。

【わたつみのいろこの宮】

同じく青木繁の作品。文豪夏目漱石に高く評価されました。

久留米市指定文化財

ごこくじんじゃ いしはし
五穀神社の石橋



久留米藩7代藩主有馬頼隆によって作られた、全長12.95mの石橋です。久留米市内では、石浦大橋、高良山御手洗橋に次いで古い橋です。

・校区の範囲
・埋蔵文化財包蔵地
・寺町

